

浜島町まちづくりグループ WITH AIBE

キーワード：びん玉 キャンドルナイトイベント

活動地域：三重県志摩市浜島町

活動地域概要：

志摩市は、三重県の東南部に位置し、2004年に5町が合併した人口6万1千人弱の市。市全域が伊勢志摩国立公園に含まれ、英虞湾、的矢湾といったリアス式の海岸が特徴的で、湾内をはじめ、大小の島々も点在する自然豊かな地域。気候風土は、四季を通じて温暖で恵まれた条件となっており、気温は年平均15～17で積雪を見ることは稀。古くから豊かな海の幸を都に献上する御食国（みつげくに）として知られており、恵まれた気候や地の利を生かした水産業・農業や観光業を中心として発展してきた。



団体・活動概要：

古くから漁業と観光を中心に栄えてきましたが、昨今は観光客が減少し旅館の閉鎖が続き、町に活気がなくなりました。この逆境を跳ね返すために、地域の若い世代が自主的に集まって団体を設立しました。「あいべ」とは、浜島のことばで「歩け」という意味です。20代から40代の様々な職種の人々がメンバーとなっています。「できることから無理せずがんばろう!」と活動し始めました。これまでにびん玉オブジェの制作、観光客と住民が交流できる「びん玉ロード」の整備、びん玉を核とした他地域との交流活動、まち歩きマップの作成、イベントの開催など自分たちも町を楽しめる多くの活動を実施してきました。助成対象活動では、夏至と冬至にキャンドルナイトイベントを開催し、子どもと母親が気軽に活動参加できるような雰囲気づくりに努めました。その他、まち歩きマップの更新、交流活動の推進等、これまでの活動をさらに展開させてきました。実現には至りませんでした。太陽光エネルギーを活用したびん玉オブジェの整備活動も検討しました。今後は意欲ある団塊の世代を活動に巻き込んだり、交流活動を発展させて、住民から賛同と評価を得られるような団体を目指します。



浜島町まちづくりグループ WITH AIBE

設立：2001年 メンバー総数：20名

代表者：岩崎充宏

連絡担当者：井上雅平

連絡先：〒517-0404 三重県志摩市浜島町浜島 3321

TEL：090-1281-5180

FAX：0599-53-0458

E-mail：bindama@aibe.jp

ホームページ：http://www.aibe.jp

1 団体の目的と経緯

(1) テーマと目的

歩いて楽しむまちづくりを自分たちの手で力でまちづかいに変えて行こう！どうせやるなら、自分たちの能力を結集して自分たちも楽しみながら積極的に動いてみよう！をテーマに「出来ることから始めよう！」を合い言葉として、浜島町のまちづくりに取り組みました。

若い世代でどこまで出来るか、やれるところまでやってみようじゃないか！失敗しても良いし、失敗をバネにもっと成長しよう！とメンバーが、この浜島町の次の世代へのまちづくりへの橋渡しを考えながら同時にやる気ある人づくりに取り組んでいくことを目的に2001年8月に浜島町まちづくりグループ「WITH AIBE」が結成されました。

(2) 地域の状況や課題、この活動を始めたきっかけ、これまでの活動経緯

気概のある若者による自主的なまちづくり

志摩市浜島町は、古くから漁業と観光を中心として栄えてきた「まち」であったが、長引く経済状況の低迷などにより、あらゆる産業において閉塞感が漂っていました。

このような背景から2001年に三重県の少額な事業をきっかけに、町内の若い世代が自主的に集まり、浜島町を再生させるために明治維新の主人公達のように、町の至る所の会議室を使って、様々なまちづくり議論を展開して、ようやく同年8月に「誰もが参加できる開かれたまちづくりグループ」ウイズ・アイベを立ち上げて積極的に活動を展開しました。



びん玉ロード

主な活動経緯として

- ・海岸遊歩道への「びん玉ロード」の整備
びん玉とは、古くから漁業で使用されていたガラスの浮き球で、現在はプラスチック製のもの主流となっている。このガラスの浮き球は現在希少価値のある品物で現存数も少量で、すべてがハンドメイドの為製造されていない。
- ・びん玉で繋がる他地域との交流活動
- ・浜島町歩きマップの製作
- ・海辺とびん玉を使用した手作りの音楽イベントの開催
- ・各種団体との連携による海岸清掃活動
- ・集客交流活動の一環として小学生・大学生などの合宿誘致活動（交流事業）など

2 活動の内容

(1) 具体的な活動の紹介

【スローソサエティー】の提案活動として全国規模で開催される環境ムーブメントイベントの開催。

- ・100万人のキャンドルナイトIN浜島びん玉ロード開催（夏至・冬至）

本年で2度目となる「キャンドルナイトイベント」夏至・冬至バージョンを両日にちなんで開催しました。前回の参加者（地元子供達も含む）が私達の活動に関心を持ってきている事を改めて確認できた事もありました。子供達が自主的にキャンドルに灯りを灯してくれたり、準備にびん玉を運んでくれたり、ゴミの片づけなど地域の子供達が興味を示してくれていることを実感できました。

また、子供達の親世代もイベントを手伝ってくれたり、アイベの活動に参画したいという声が高く、何か出来ることからでも活動に参加できる環境を徐々に整えており、自分たちの活動において、目指すべき目的がどんどん達成される感があります。

冬至のイベントも同様に、地域の子供達に季節的



100万人のキャンドルナイト夏至実施状況

な行事として古くから伝わる「ゆず湯」を工夫して足湯を作ってみたり、カボチャのスープを振る舞ったりして、冬至において「なぜ？」という素朴な疑問を抱くような仕掛けづくりを展開しました。

このような仕掛けは、日本古来からの習わしを子供達に伝えられる重要なイベントであったと思います。

・「太陽光発電びん玉キャンドル」の整備活動

この活動は、地球環境・自然エネルギー等を地域のみなさんに考えてもらうための仕掛けとしてメンバーが何度も会議をしながら、地元の設計士さんの知恵も借りながら検討しました。

検討後、必要資材等は揃えたのですが、設置位置について行政との折衝で折り合いがつかず、現在も設置場所について折衝中です。

この活動に至っては、メンバーが行政の「ことなかれ主義」を改めて考えさせられた一面もありました。

さらにねばり強く折衝しつつも協力関係を築いている関係団体と協調しながら取り組んでいます。合併前の「浜島町」ならばすんなりいくはずの事が「合併後の志摩市」では理解しづらい認識もある面をメンバーが感じているのも確かです。

・まち歩きマップの更新

以前のマップをバージョンアップするためのワークショップを何度も会議を重ねて作成しました。このマップ作成には地元の各商店の意見を各メンバーがとりまとめる形で活動を展開しました。

今後このマップを有効に使うことで地域への集客交流への取り組み材料として関係する団体・機関・施設などを結ぶアイテムにしていく方針です。

また、マップに関連して町歩きウオーケイイベントも展開して集客交流事業への誘導も行いました。

・集客交流活動の継続

びん玉でつながった地域との連携・イベント招致などを積極的に情報交換しました。滋賀県NPO団体とは、情報交換の一環として滋賀県で開催されたNPOフォーラムに出向き地域づくりネットワークづくりを展開しました。

また、本年も武蔵工業大学の学生を受け入れて浜島町まちづくりゼミ合宿を展開するとともに、参加した学生によるイベントボランティア協力等をしてもらいました。

参加した学生によるレポート提出なども受けて、外部的見地から見た「浜島」を、今後のまちづくりへと活かす参考データとして頂きました。

(2) 活動の特徴、工夫点、苦労した点

本年の活動については、今までの「びん玉ロード」という活動の原点に立ち返り、再度メンバー間においてワークショップを何度か開催しながら、今後どのように活動を展開していくかの方向を議論しながらの活動に至りました。

活動におけるターゲットを子供達が気軽に参加できるイベントづくりに心がけると共に、その母親である同年代の女性達にも気軽に活動参加できる雰囲気づくりを活動の中で展開していきました。

昔の漁具を使用した「まちづくり」活動が徐々に町をフィールドにした様々な活動へとシフトチェンジしつつあります。しかしながら、メンバーそれぞれの生業の忙しさにも没頭されつつあります。これは、メンバーそれぞれが2代目の店主という意味において生業において重要なポジションになってきている事も伺えますが、地域のためのボランティア活動の重要性なども十分理解したメンバー達であるため、今後も積極的な活動展開が図れると考えています。



他団体との交流会議



武蔵工業大学浜島ゼミ合宿受け入れ

3 活動の成果

(1) 目的・目標は達成できたか

活動において地域の子供達が何らかの形で活動に参画出来るような環境を整えられたという事は、活動目的である「ひとづくり」への展開においてある程度の達成を得られたとも考えています。

ただし、中心メンバー以外のアイベ応援団として子供達の母親を活動に参加してもらえるようなプログラム展開をもう少し積極的に仕掛ける必要があるとも考えられます。

スローガンである「出来ることから始めよう！」はこれからも、地域の人たちをどのように巻き込んで行くかが鍵であり、その方向性を今後ワークショップを重ねながら展開していかねければとメンバー間で共通認識を持っています。

(2) 地域や団体にどのような変化もたらしたか

活動4年目となった本年は、市町村合併後、本来の意味で活動真価が問われる時期でありました。

これまでの活動で合併後の浜島町外においても「市民活動団体」として認知度は十分にあり、「浜島町にはウイズアイベ有り」と言われるまで高評価を得ている中で、さらに地域内での活動だけで収束せず他地域との連携・協力などが必ず必要であるとの認識を抱いていた中で、他地域の団体から様々な協力連携の誘いなどもありました。また、他地域の市民団体の活動への協力なども積極的に展開していきま

した。
地元における変化については、特段有形な形であ

るものではありませんが、ウイズ・アイベの活動が地域住民の皆さんに応援していただいていると感じられるようになってきています。中でも地域の子供達が「びん玉ロード」「アイベの活動」等に何かしらの好奇心を抱いている様に感じられます。

また、地域の人たちから「次は何をしでかすのか?」という期待感もメンバー個々が感じているのもワークショップなどでメンバーの口々から発せられています。

しかし、一方で「浜島町」として合併後の閉塞感

はどんどん進んでいるようにも感じられます。



びん玉加工作業

(3) 活動に必要な資源(人材・資金・情報・ネットワーク etc.)をどのように活用し、新たに構築したか

活動における新たな資源の活用・構築については特段どのようにしたかという部分はありませんが、強いというならば他地域の各種団体との連携における「ネットワーク」の構築がどんどん進んでいるという事が今後の大きな資源となる

ような予感がします。

(4) 助成がどのような役割を果たしたか

本年度の助成活動における助成の役割として、短期的には「個々の活動資金の基礎」となっている経費要素という傍らで、長期的に考察した場合「地域間ネットワーク」への投資的経費として位置づけられると考えられます。

今回の助成では、なおさら「地域間ネットワーク」への投資要素比率が十分に考えられ、他地域との交



海上保安部との協働作業【ビーチクリーン活動】



キャンドルナイトイベント昼の部
「シーカヤック体験乗船会」開催

流において、今後の人的資源を得られた部分が非常に高く、今後「ウイズ・アイベ」の活動における他地域・他団体の人的な協力が更に得られる考えられます。

(5) その他団体の視点から成果と思われること

活動成果としての部分にも明記させていただいていますが、本年の活動が更に大きく志摩市内での活動エリアとして捉えた時に、大きな意味で他地域・他団体との協力連携が強固な結びつきとして考えた場合、行政機関からも期待される市民団体として高い位置づけを得られた事が、今後どのように発展するかという意味で活動の成果として位置づけられます。

特に、合併後の閉塞感がぬぐえない浜島町における「活動」は、地域の人たちに与える印象として更に地域住民からも期待されている団体としての評価もあります。

このことは、合併後における個々の地域づくりへの行政の関与度が低い事もあり、行政と住民との間の中間的組織団体として、まちづくり実行団体として位置づけられたとも考えられます。

4 活動資金

(1) 助成活動における活動資金のうち、助成金以外の財源の内訳とその割合

本年度の助成金以外の財源については下表のとおりとなっています。

財源内訳	金額(円)	割合
イベント寄付協賛金	120,000	全事業費の12%
イベント各種 売上諸収入引当	100,000	全事業費の10%
会費収入引当	120,000	全事業費の12%
計	340,000	



100万人のキャンドルナイト冬至バージョン準備中



冬のイベントに備えてもち米植え付け作業

(2) 助成期間終了後の活動資金確保の見直しとその方策

資金確保として、終了後は資金ありきで活動を考えるのではなく、活動ありきで考えなくてはと考えています。個々の活動内容を更に見直して、無料でのイベント開催を極力控え、参加者負担の原則を考えなくてはならない部分もあります。

しかし、資金確保として今後他団体との共催としての資金確保、更には地域の人たちのカンパなども得ながら、助成金事業・委託事業などを模索していきます。行政からの補助金としては全く期待しない方針を今後も一貫していきます。

地元行政からの下請け団体とならないため。

5 課題

活動においての課題は、若いメンバーの充実が一番急務であると考えていますが、活動しながらも町の閉塞感をいかにして拭えるかが課題と考えられます。

行政の財政が逼迫している中で、大きなハードを含む「まちづくり」は望めない分、人づくり活動・まちの資源を有効に使う「まちづかい」を含めて次の段階へのまちづくりを計画していくには、さらなる人的なワークショップが必要であり、他地域との連携で得られた人的資源を活かして、ポジティブなアイデアを出していきながら、課題を解決していきたいと思えます。



冬至バージョンキャンドルナイトイベント

6 今後の展望

(1) 団体や活動の将来像(今後の展開として検討・予定している内容や目標等)

今後の活動展開として、大きな方向転回は行わず、地道な活動を展開しつつも、浜島町地域外の団体との協力連携を更に発展させて行く方向です。

ただし、今後2007年問題として社会的に増加する「段階の世代」のリタイアされた意欲ある方達にも活動に加わっていただかなければ地域の閉塞感が増す一方であるので、「段階の世代」の方達を如何に巻き込んで行くかが鍵となると考えています。

方法として、ワークショップへの参画招致や個々へのアプローチ等を積極的に展開していきます。

現在検討している内容として、志摩市で2006年秋に開催される「第48回自然公園大会」へのびん玉ロード等の積極的な展示展開も協力していきながら、情報発信を更に充実すると共に、浜島町地域の活動に賛同していただける家庭に対して、びん玉を軒下などに展示してもらえようような方法を現在検討中です。ウイズ・アイベの活動が5年後10年後どのような形であれ、地域から評価されるような仕掛けを作っていく「まちづかい」のテクニックを駆使して、次の世代への転換を「まちづくり」として求めて行けたらと考えています。